

焼却施設について

[焼却施設の概要(平成23年4月1日現在)]

資料6-2

●焼却施設の形式別

炉の種類別(区分)	運転方式	種類別施設数	処理能力(t/日)	備考
1 ストーカ式	全連続	40	14,590	機械化パッチ1含む 灰熔融施設3基
2 流動床式	全連続	4	412	
3 熔融炉式	全連続	2	450	
合計		46	15,452	

①排ガス処理施設の形式別

排ガス処理施設の種類別	種類別施設数	処理能力(t/日)	備考
1 バグフィルター+洗浄集じん	16	6,592	活性炭噴霧 ---3施設
2 バグフィルター	19	3,890	活性炭噴霧 ---6施設 活性炭吸着塔 ---1施設
3 電気集じん機+洗浄集じん+バグフィルター	4	1,950	
4 電気集じん機+洗浄集じん	6	2,570	活性炭吸着塔 ---1施設
5 電気集じん機	1	450	反応塔(消石灰液噴霧) ---1施設
合計	46	15,452	

(参考1)排ガス処理施設の集じん効率(ばいじん)

排ガス処理施設の種類別	ばいじん集じん効率(計画値)(%)	排ガス濃度		備考
		(計画値)(g/Nm ³)	(最新計測値)(g/Nm ³)	
1 バグフィルター+洗浄集じん	99.6 ~ 99.96	0.01 ~ 0.04	0.001 ~ 0.0075	
		99.79	0.02	0.002
2 バグフィルター	99.0 ~ 99.95	0.01 ~ 0.05	0.001 ~ 0.018	
		99.69	0.02	0.005
3 電気集じん機+洗浄集じん+バグフィルター		0.01	0.001 ~ 0.006	
		0.01	0.004	
4 電気集じん機+洗浄集じん	99.38 ~ 99.7	0.015 ~ 0.08	0.001 ~ 0.022	
		99.5	0.03	0.006
5 電気集じん機	99.12	0.05	0.001	
		99.12	0.05	0.001

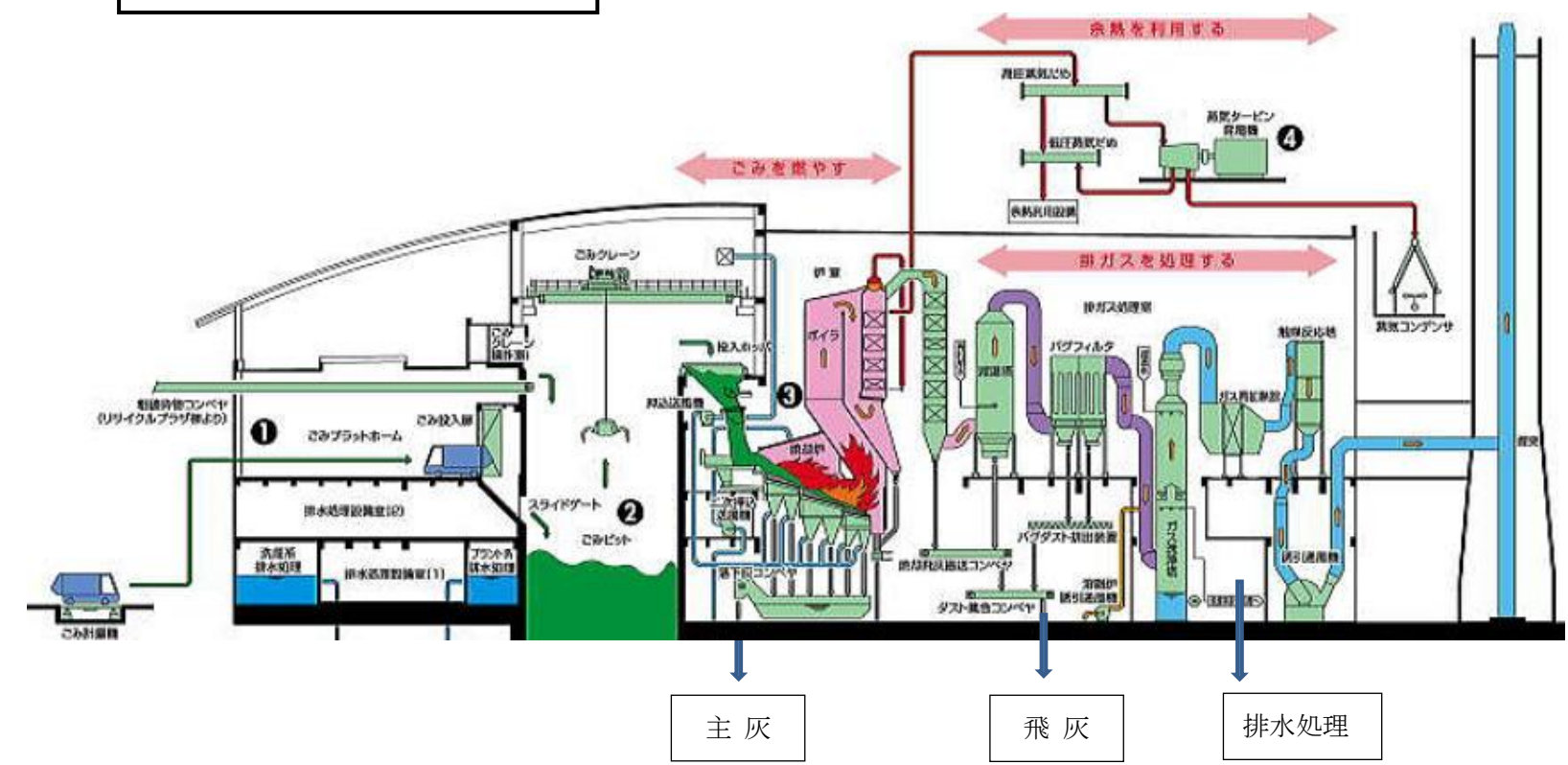
注)ばいじん集じん効率(計画値)についてはメーカー保証値。なお、電気集じん機と洗浄集じんにバグフィルターを追加した施設については、メーカー保証値が設定されておらず、空欄。(4施設共)
※数値の上段は最小値~最大値、下段は平均値

(参考2)ばいじん(飛灰)処理

灰処理	種類別施設数	備考
1 薬剤処理	36	
2 セメント固化	3	
3 セメント固化+薬剤処理	4	
4 熔融処理+薬剤処理	3	

[焼却施設の技術上の主な基準(廃棄物処理法)]

- ①焼却施設は外気と遮断され、ごみを焼却室に定量供給
- ②燃焼室の燃焼ガス温度を800℃以上に保ち、2秒以上滞留
- ③燃焼に必要な量の空気を供給できる設備の設置
- ④集じん器に流入する燃焼ガス温度を概ね200℃以下に冷却できる冷却設備の設置
- ⑤燃焼中および集じん器に流入する燃焼ガス温度を連続的に測定、記録する装置の設置
- ⑥ばいじんを焼却灰と分別して排出し貯留することが出来る灰出し設備及び貯留設備の設置



排ガス処理施設について

◎国の考え方

十分な能力を有する排ガス処理施設が設置されている施設で焼却処理が行われる場合には、安全に処理を行うことが可能。

- ・バグフィルターに活性炭の吹込み装置が設置されている場合
- ・バグフィルターに湿式排水ガス処理装置が設置されている場合
- ・電気集塵機に活性炭吹込み装置が設置されている場合(排ガス濃度のモニタリングにより安全性を確認しつつ)

ばいじん(飛灰)処理について

